



天然ゴムの持続可能な利用に向けて

EUDR(欧州森林破壊防止規則)の概要 と 原材料の適正な調達に関する勉強会向け

Jan 20th, 2025

ブリヂストンの概要

世界中で事業を展開し、ヒト・モノの移動と動きを支え続けている
“**タイヤ・ゴム業界のグローバルリーディングカンパニー**”

事業概要

タイヤ・ゴム事業 / ソリューション事業 / 多角化事業

タイヤ事業

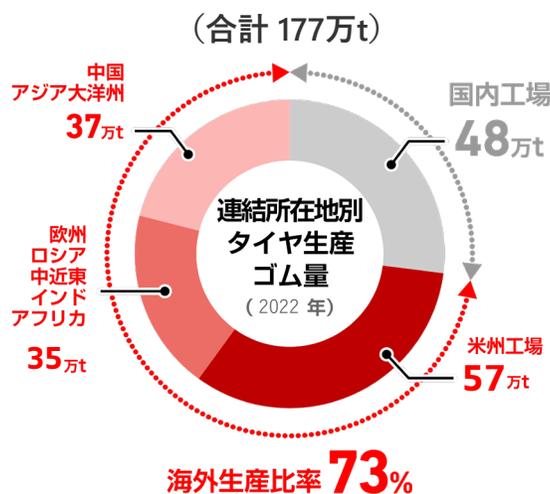
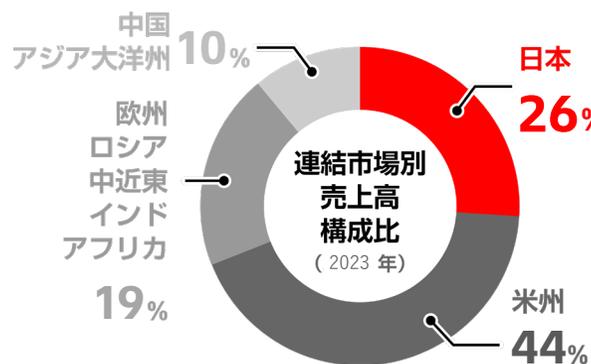


化工品・
多角化事業



連結売上収益

4兆3,138億円 (2023年12月期)



グローバル生産
研究開発拠点数 約**130**拠点

グローバル
従業員数 約**13**万人



グローバル約150の国と地域で事業を展開

天然ゴムサプライチェーンの概況



約**70%**

世界中で生産される天然ゴムにおけるクルマの
タイヤおよび自動車部品に使用されている割合

約**30%**

タイヤの原材料使用量における天然ゴム比率

約**1,400万ha** (東京ドーム300万個分)

天然ゴム供給源のパラゴムノキの栽培面積

約**80%以上**

世界の天然ゴム原産地における東南アジアが
占める割合

約**90%以上**

世界の天然ゴム生産における小規模農家比率
約600万人もの多くの農民に支えられている

EUDR対応に向けて

自社農園
を通じた
取り組み

競争優位・差別化

- » 自社農園でのトライアル・課題抽出・早期対応
- » 社外認証制度の試行：ISCC PLUS認証 EUDRアドオン取得 (世界初)



パートナー
との協働

共通課題の解決に向けた協働・価値の共創

- » サプライヤーとの協働による**トレーサビリティ確保**
※天然ゴムは相対的にサプライチェーンが複雑で長い傾向 ⇒ 農家まで遡るのが大変
※一緒に現地を見る・現場を知ることが有効
- » サプライヤーとの協働による小規模農家へのEUDR対応の**具体策のレクチャーや改善サポート**

業界
を通じた
取り組み

- » タイヤ業界団体(欧州-ETRMA)や天然ゴムのマルチステークホルダープラットフォーム(GPSNR)との連携による**欧州政府とのダイアログ**
- » サプライチェーンの**効果的/効率的なDD**に向けた更なる協働検討 (CSDDDを見据えて)

天然ゴムの持続可能な利用に向けて

- 再生可能資源である天然ゴムの持続可能な利用に向けた取り組みを強化 ～ 森林破壊ゼロの実現に向けて

サプライチェーン全体での取り組み



サステナビリティ共創—パートナーとの協働
グローバル調達ポリシー



持続可能な天然ゴムのための
グローバルプラットフォーム“GPSNR”

当社が主導して設立した、マルチステークホルダープラットフォーム
グローバル標準、枠組みの策定、小規模農家支援などを推進

ブリヂストン“個社”としての取り組み



自社農園の生産性向上



+1,678ha
(2023年 339 ha → 2026年 2,018 ha, グアユールによる緑化含む)
荒廃地の復元植林



“グアユール”
天然ゴム供給源の多様化



現場100日チャレンジ

現物現場で
天然ゴム小規模農家支援

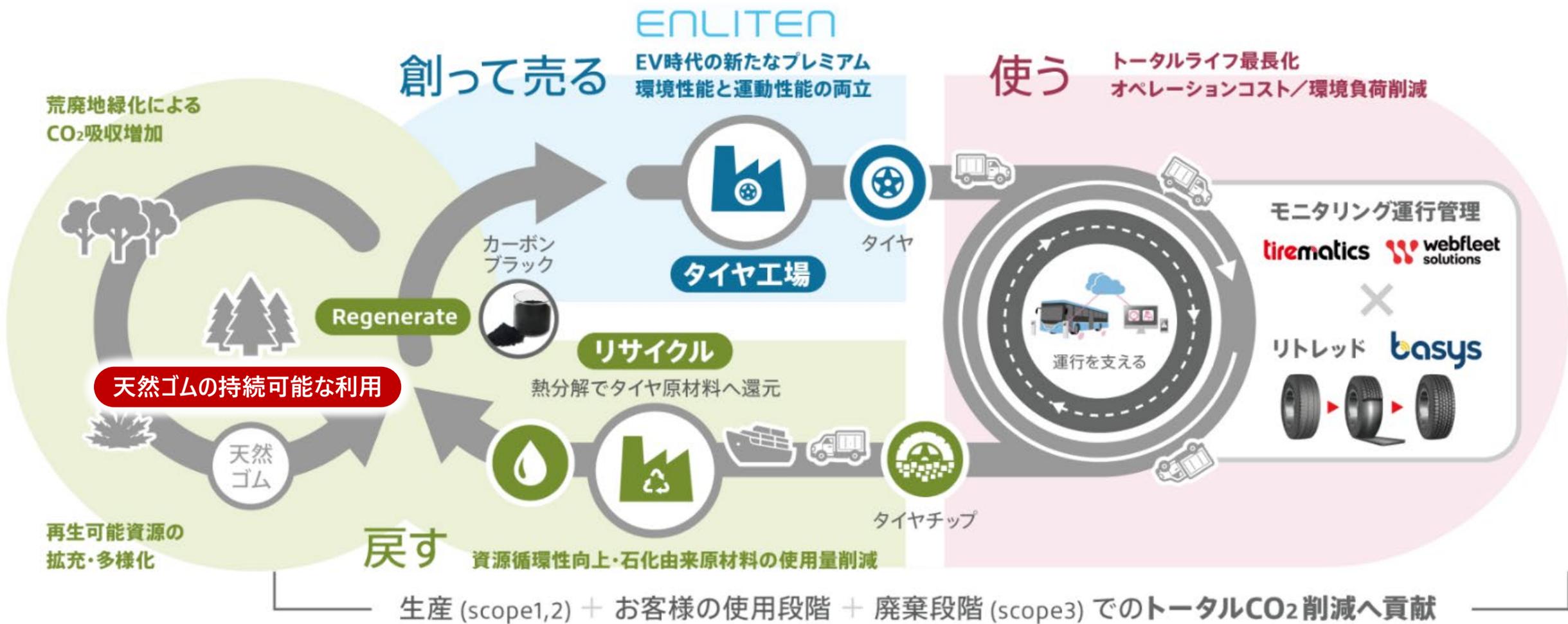
持続可能な
天然ゴムの利用
森林破壊ゼロの
実現に貢献

天然ゴム小規模農家
支援件数

2026年 **12,000**軒
(累計支援者件数 2023年以降)

ブリヂストン独自のサステナビリティビジネスモデルの進化

“ネイチャーポジティブ”に向けて、より**循環型・再生型**のビジネスモデルへ





いなつき あきひろ

稲継 明宏

グローバルサステナビリティ戦略統括部門長

<略歴>

2004年、(株)ブリヂストン入社。環境管理部門にて環境改善技術の開発及び展開に従事。国内のみならずアジア各国、欧州、米州の生産拠点の環境改善をサポート。2010年からは、環境戦略企画機能を立ち上げ、カーボンマネジメントの推進、環境宣言のリファイン、環境長期目標の策定など、グループ・グローバルの環境戦略策定に従事。その後、2012年より米国に新設した建設・鉱山車両用大型・超大型ラジアルタイヤ用の新工場の建設及び立上げ業務に携わった。2015年に帰任後はCSR統括業務に従事し、全社のCSR・環境戦略企画及び推進業務を統括。2018年からは経営企画部長としてグローバル本社の経営企画業務に従事した後、現在サステナビリティ課題のグローバルでの取り組み強化に向けて、基盤構築やサステナビリティと経営戦略との統合などに取り組んでいる。

